# 教 区 報

第114号　2020年12月

**日本ハリストス正教会教団**
**東日本主教々区**

発行：東日本主教々区宗務局
〒980-0021　仙台市青葉区中央３丁目４番20号
電話　022-225-2744　fax　022-224-3080　https://www.orthodox-sendai.com/
振替　02200-2-30428「東日本主教々区宗務局」　orthodox@hyper.ocn.ne.jp

## 主神我等の救世主
## イイスス・ハリストスの降誕祭

「私たちの主イイスス・ハリストスはその限りない愛に因り、私たちが彼ご自身と同じくなれるように人となられた」と聖師父は降誕の秘儀を説いている。さらに「今日ハリストスは生まれたまいしに、天と地は合わせられたり、今日神は地に降り、人は天にのぼれり」とハリストスによって神と人との道は開かれたことを「合わせられたり」と表している。

旧約のイヤコフの夢には天使等が天と地を行き来する梯子が現れ、この出来事を主はナファナイルとの対話で、天と地の間ではもっと大きな行き来が始まると話された。天と地は生神女マリヤという、神の選ばれた梯子に因って結ばれ、人はもはやこの絆からは逃れられることはできない世界に置かれた。そして神の愛は善人に向けられるよりも、不誠実で罪を重ねていながらも最後に神を選び取る罪人に向けられる。降誕祭前に読まれる福音書には、救主イイススの「系譜」が記され、四人の罪婦の名前が連なっている。五人目に出てくる女の名前はマリヤ。最も謙遜にして従順な処女は神子を生み「神の母」と称えられ、その嬰児は「エムマヌイル」（神は我らと偕にす）と称えられる。

**我等の爲に永久の神は嬰兒として生れ給えり**

**Родился, ради нас родился Младенец малый, Предвечный Бог.**

# 日本ハリストス正教会 聖自治50周年記念式典

9月13日(日)、「聖ニコライ列聖・聖自治五十周年及びロシア正教会日本伝道団創立百五十周年記念式典」が東京復活大聖堂にて開催された。

新型コロナウイルス感染拡大によりキリール総主教聖下のご来臨を賜ることは叶わなかったが、記念式典には各教区の宗務局長と代表信徒、キリール総主教聖下とロシア正教会の代表として駐日ポドヴォリエのニコライ・カツュバン神父とロシア連邦大使館関係者が参祷された。

当日は記念聖体礼儀に続いて聖ニコライのモレーベンがセラフィム大主教座下のご司祷で献じられた。記念式典では総主教聖下の祝辞を駐日ポドヴォリエのニコライ・カツュバン神父が代読し、記念に聖ニコライのイコンが贈呈された。また日本正教会からは総主教聖下に記念品の西陣織の反物を贈呈した。その後谷中の主教墓地にてセラフィム大主教座下のご司祷で聖ニコライのモレーベンを献じ、各主教に永遠の記憶が行われた。

▲谷中墓地での祈祷

▲セラフィム大主教座下とダニイル府主教座下

▲聖堂中央に置かれた聖ニコライの不朽体

# 教区会議の開催　6/27-28　仙台

6月27日(土)、28日(日)に仙台正教会において教区宗務局理事会と教区会議が開催された。コロナ禍により多くの理事、代議員は欠席委任がほとんどとなる異例の会議となったが、主日奉事には久しぶりに参祷する仙台の信徒が集まり、聖体礼儀後には主教着座20年を迎えられたセラフィム大主教座下に神品よりジェーズル（権杖）が贈られた。

「困難な時こそ利己的にならず教会全体の視点で助け合う必要がある」とのセラフィム大主教座下のご訓示に始まった会議は、資料が事前配布されていたこともあり、宗務・財務の報告にも特段の質問はなく、全て承認された。今回の感染拡大の影響を鑑み教団から特別交付金が支給される件についても理事会の提言や司祭会議での検討を受けて、配分方法などを宗務局会議で決定することとなった。最後に東京で開催される通常全国公会代議員を選出して会議を閉じた。

▲信徒会館での教区会議

▲大主教座下に権杖が贈られた

▲権杖を手にする大主教座下と教区の司祭ら

# 全国公会の開催　7/11-12 東京

7月11日(土)、12日(日)の両日にわたりニコライ堂において通常全国公会が開催された。全国の代議員は多数の方々が欠席委任となり、主に神品代議員と一部の代表の方が出席した。

初日はダニイル府主教座下の開会訓示、宗務総局、全国宣教企画委員会、財務諮問委員会、諸規則検討委員会と聖ニコライ列聖・聖自治50周年記念式典関連の報告が行われ、また豪雨で河川氾濫のあった熊本県人吉の状況が報告された。

翌日の主日聖体礼儀中にコンスタンチン桝田神父は長司祭に昇叙された。会議は収支決算報告、予算案審議と続き全て了承された。横浜と豊橋から神父派遣の請願があり、府主教座下から横浜には近々専任の神父をあてること、西日本の教区にソロモン川島伝教者を派遣することが報告され、最後にセラフィム大主教座下の閉会の言葉をいただいて公会は終了した。

▲ニコライ会館で行われた全国公会本会議

▲長司祭に昇叙されたコンスタンティン桝田神父

▲聖ニコライのモレーベンで閉会祈祷

# ―セラフィム大主教座下のご動静―

セラフィム大主教座下は東京の副主教として毎月東京本会へご出張されて府主教座下を支えられ、ニコライ堂のみならず全国各地での奉事にも出かけられている。

**【グリゴリイ小川公神父埋葬式】**

8月17日㈪、かねて休職されていた徳島正教会の長司祭グリゴリイ小川公師（84歳）が癌性胸膜炎によりご永眠され、セラフィム大主教座下のご司祷で21日に徳島正教会において、ご子息の司祭ナファナイル小川卓師を喪主として埋葬式が執り行われた。

**【ニコライ堂での諸奉事と会議】**

セラフィム大主教座下は9月13日㈰に行われた日本正教会聖自治50周年記念式典の諸準備にご尽力され、行事は滞りなく終えることが出来た。その後、10月10日㈯から14日㈬まで東京に滞在され、11日㈰は主日聖体礼儀、14日㈬には生神女庇護祭の聖体礼儀をご司祷された。

このように毎月ニコライ堂での諸奉事に立たれ、その他に主教会議や総局会議などの諸会議に出席されるなど仙台と東京の行き来に忙しくされている。

## 教区宗務局会議の開催

8月18日㈫午前に仙台正教会信徒会館において、教区宗務局会議が、セラフィム大主教座下、宗務局長小池神父、教務部長水口神父、庶務部長児玉神父を集めて開催された。

今回の会議のテーマは教区会議で宗務局に一任された、コロナ禍による献金収入減に対する教団からの特別交付金の分配案についてであり、諸状況を鑑みながら十分に検討し、分配額を決めた。

9月26日㈯、27日㈰の両日にわたり小樽正教会において今年度第1回目の北海道ブロック宣教会議が開催された。

前回神父のみで行われた会議の報告があり、宿泊交通費の補助要請を教区会議に提出し承認されたこと、旅費規程を改訂したことなどが説明された。他に各教会の活動報告と今年度予定されている活動の検討が行われた。

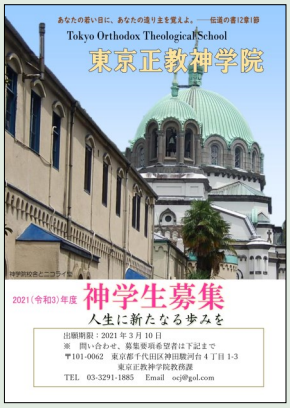
今後の予定行事も開催はその都度検討されるが、活動再開に備えて準備を怠らず、時機を見て司祭会議などを開き、開催の可能性を探っていきたい。

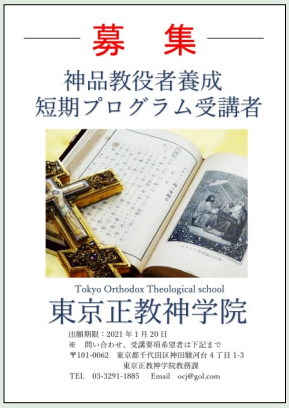
## 東北・北海道ブロック宣教会議の開催

10月15日㈭、一関正教会において東北ブロック宣教会議が開催された。宣教委員9名全員が集まり、様々な事項について話し合った。

会議では各種報告の他、コロナ禍で教区行事が制限される中で出版に力を注ぐことが確認された。宣教ブックレット「天のパン」が発行され、今後の予定として「天と地の間」（イオアン長屋神父翻訳）の再版、「正教会用語小辞典」、東日本主教々区の教会マップ改訂版の作成が確認された。

## 東京正教神学院
## 神学生及び神品教役者養成短期プログラム受講者の募集




東京正教神学院は聖職者を養成する教育機関です。現在、神学生と神品教役者養成短期プログラムの受講者を募集しています。このプログラムは教会で奉仕経験のある22-65歳までの男性信徒を対象に年に2回、各回5日間の集中講義と実践を行うものである。是非意欲的に参加してもらいたい。

神学校の来年度出願期限は2021年3月10日、養成プログラムは2021年1月20日。詳しくは管轄司祭まで問い合わせのこと。

# コロナ禍の中での教会活動　制限の中での様々な工夫

新型コロナウイルスによる世界的な大流行により、社会活動の大幅な制限が行われ、教会も参祷停止や感染防止対策、諸行事の中止など、これまでにない経験を強いられている。しかし、教区内でもこのような状況にあっても前向きに捉えて、様々な工夫を凝らして取り組んでいる教会もある。

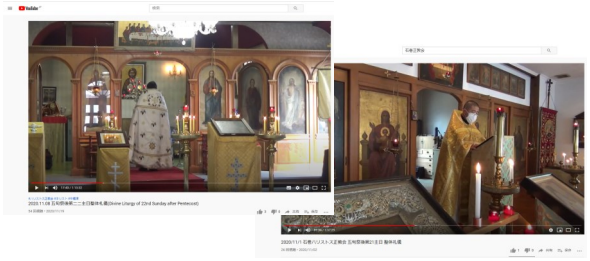
## ［手作りマスクに願いを込めて］

敬老会祝賀会が中止となって感謝祷のみとなった仙台では、お祝い品を婦人会手作りのマスクとした。消しゴムハンコと耐水性インクによって「オリブの枝を加えた鳩」がスタンプされている。これはノアの大洪水の災いが終息した徴であり、コロナ禍の一日も早い終息を願う気持ちが込められている。心のこもったお祝い品に続々と感激の声が寄せられた。

## ［情報の提供　－SNSの活用－］

フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどのSNS上で旅行者や市民がその地の様々な写真や記事を投稿している。教会の側からその日常や出来事、予定などを積極的に紹介することで、正しい情報を発信し、教会の諸活動にも関心を持つ人を増やす可能性はあるだろう。コロナ禍にあって、ネット上での情報取得はますます盛んになるだろう。SNSの有効な活用は今以上に検討されるべき課題と考える。

## ［聖体礼儀のネット配信］



教会の奉事のネット配信は他教派も含め増えているが、教区内では釧路、石巻が聖体礼儀のyoutubeやfacebook上での配信を行っている。参祷自粛により教会へ来られない信徒のため、教会へ関心を持つ人への宣教のため、信徒の学びのためなどが配信を始めた理由に多い。特にライブ配信は一体感を感じやすく、遠くにいても毎週聖体礼儀を視聴できることを喜ぶ人もあるのではないだろうか。また正教会の祈祷を本やリーフレットと違い動的に紹介する利点もある。実際の効果として、信徒以外からの問い合わせが増え、通い始めた人もあるという。

Zoomなどの会議アプリも、コロナ禍での在宅勤務、遠隔地同士の会議やコミュニケーションで大変普及している。西日本主教々区ではこの方法で司祭会議を実施して議論が円滑になり、意見もまとまりやすいとの報告もある。旅費等が必要なく経費削減の効果もあるだろう。

ネット配信は、多数の人々が視聴することで宣教効果を増す可能性は高いと思われる。問題は視聴者をどのように増加させるか、また視聴を機会にして教会とのつながりを増し、今まで以上に人々の関心を促す工夫と配慮が必要と思われる。便利さの追求と共に、活動本来の目的を踏まえた十分な検討が求められる。

## 特別講話「イコンについて」

11/3　白河ハリストス正教会

9月26日から11月3日にかけて福島県白河市内において「風月の芸術祭」が開催され、白河正教会もこれに協力し、11月1日(日)、2日(月)、3日(火)の三日間にかけて聖堂を一般公開した。最終日の3日(火)には、午前11時からと午後1時30分から（計二回）、ダヴィド水口神父による「イコンについて」の特別講話が行われ、延べ70人もの多くの市民が聴講に訪れた。

プロジェクターを使ってイコンと絵画の違いを示しながらイコンの読み方を学び、それを踏まえて山下りんのイコンの特徴が解説された。さらに、今年新たに文化財に指定された三つのイコン「就寝聖像」「至聖三者（三位一体）」「大十字架」についてそれぞれ何がどのように書かれているのか、どのような目的で使われるかなど詳細な説明が行われた。講話の後には、見学と質疑応答の時間も設けられ、白河正教会の貴重なイコンの数々を間近で感じ取った方々より、たくさんの感激の声が寄せられた。

▲講演に先立って感謝祈祷が捧げられた

▲ペトル佐々木のイコンが紹介された

## 文化講演会「正教会のイコンの伝統」

11/3　北鹿ハリストス正教会

11月3日（火）、北鹿正教会曲田福音聖堂において、毎年恒例となる「文化講演会」が行われた。新型コロナウイルスの影響もあって参加者も少ないかと思われたが、地元の方々を中心に多くの聴衆が集まり、結果的には例年と同じ程度の規模となった。

今年の講演のテーマは「正教会のイコンの伝統」とし、教会内に多く飾られているイコンの意味、正教徒が祈りにイコンを用いる理由などが、ピーメン松島神父から解説された。また地元大館市出身で北鹿正教会の信徒であり、大阪の伝教者、のちにフィンランドに渡りイコン作家となったペトル佐々木を紹介すると、地元の方々の関心を大いに引いたようだった。大館市出身の人物が遠い北欧で「フィンランドイコンの父」と大きな尊敬を集めていることは外部の参加者にとっては予想外のことであったらしく、ペトル佐々木のイコンのプリントを手に取って興味深く眺めている人々の姿が印象的であった。

# 「七件機密」

司祭　イヤコフ　篠永　真

教会とは、ギリシャ語の「エクレシア」を訳した言葉です。もともと特別な任務を行うために呼び集められた人々の集会という意味です。教会の集まりは神の民が神に祈りを捧げるための場です。「奉神礼」という言葉は、ギリシャ語の「リトルギア」の訳で「公の仕事」という意味です。神の民としての当然の務めなのです。

奉神礼の中に「機密」と呼ばれる祈りがあります。「機密」とは、神の見えない神秘的な恵みを見えるものを通して自分の身に受けることです。七つの機密を「七件機密」と呼びます。

**①洗礼機密**

洗礼機密は正教会の信者となるための機密です。洗礼で三度水に入り、三度起き上がることによって主と共に死に、主と共に復活して新しい人に生まれ変わります。白い洗礼着は、光照者として主と共に歩む生活の始まりを示します。

**②傅膏機密**

傅膏機密は洗礼を受けた人に「聖神の恩賜の印」と唱えて聖膏（特別な油）を塗る機密です。この時神からの賜物、すなわち聖神がその人にくだり、主の生き方を実践する力が与えられます。神の宮、聖神の器となる奥義を示しています。

**③聖体機密**

聖体機密とは主の体と血となったパンとぶどう酒（御聖体）をいただく（領聖する）機密です。御聖体を領聖することによって、罪の赦し、永遠の生命、主との交わりの恵みが与えられます。機密の中の機密ともいわれます。

**④痛悔機密**

痛悔機密は犯した罪を悔い改め、罪の赦しを得る機密です。洗礼を受けた人は主を中心とした生活に入ることを約束しました。しかし人の弱さによって神から離れ、信者としての生活を忘れ怠ってしまいます。それ故再び充実した生活に戻るための機会としてあるのです。

**⑤婚配機密**

婚配機密は指輪の交換を中心とする聘定式と冠を被る戴冠式とに分けられます。婚配はお互いの人格尊重と、人生の苦難に協力的に対応しながら、主の教えに従って歩む道です。二人が築く家庭は小さい教会です。指輪は西方教会と違い、神の力を意味する右手にはめます。

**⑥聖傅機密**

聖傅機密とは病に伏している人に油を塗り、癒しと罪の赦しを祈る機密です。この機密は病気を通して信仰を堅固にし、神の奇蹟、助けを求め、回復の恩寵を願いつつ、主に自分すべてを依託することでもあります。

**⑦神品機密**

神品機密とは「主教」「司祭」「輔祭」という三つの役職を任命する機密です。主教は機密を行うだけでなく、按手によって機密を行う権能を授けます。司祭は主教の下、信者を指導し、諸機密、諸祈祷を行い、輔祭は主教、司祭の聖務を助けます。

# 各地の出来事とお知らせ

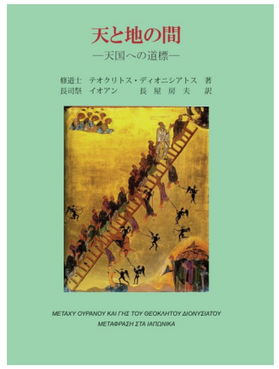
## おしらせ　宣教ブックレット「天のパン」発行

東日本主教教区から聖セルギイ・ズヴェズデンスキイ著の「天のパン」が発行された。聖体礼儀について優しく、時に厳しく教えてくれる良書。無料配布中。

### 今後の発刊、発行予定

「天と地の間」。アトス山の修道士が正教の修道性について書いた本をロシア正教会駐日ポドヴォリエ所属のイオアン長屋神父様が翻訳したものを再版予定。

新「正教会マップ」。以前の東日本主教教区の教区マップの情報が古くなってきた事を受け、新聖堂等の情報を更新した新しい「正教会マップ」を発行予定。美しい聖堂の内外の写真を多数掲載。



## 盛岡管轄

### 山田教会看板設置

山田教会の正面の掲示板に新たな案内板が取り付けられた。 地域の人にもっと教会の存在について知ってもらい親しんでもらうため。またそれと併せて、祈祷中の見学を促す玄関の札も作成した。山田教会の宣教のきっかけとなることを期待したい。

## 仙台管轄

### 中新田教会収穫祭

10月25日㈰に行われた聖体礼儀と月例パニヒダにつづいて毎年恒例の「中新田正教会収穫祭」が開催され、まずは感謝祈祷(モレーベン)を祈った後、今年収穫された初穂を成聖し、神への感謝をささげた。祈祷後は、境内でバーベキューをして懇親を深めた。今年はコロナ禍の中にあって開催も躊躇されたが、晴天にもめぐまれ、注意を払いつつ、大いに感謝の念を強くした収穫祭となった。

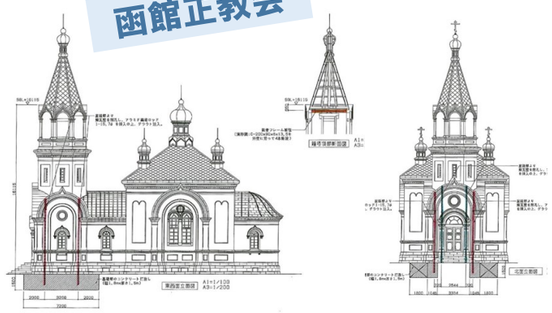
中新田正教会では、新聖堂建立以降、毎月第二日曜日に「代式祈祷」を行うようになった。そして代式祈祷後に集会を開き、さまざまな奉仕や学び、そして創作活動を行っている。例えば、聖堂や境内の清掃の他、糖飯講習会、イースターエッグ講習会、ローソクリサイクル、蜜蝋ラップ作り、聖人イコンのストラップ作りなどである。コロナ禍に負けず、これからも工夫をこらして教会活動の活発化を目指している。

## 一関正教会

### シャンデリア電球交換

9月20日(日)盛教会青年会の6人が鉄パイプや脚立を持ち込み、高い位置にさがるシャンデリアの電球をLEDに換えて下さった。安全第一の作業にするために、簡単な図面を起こして準備をしてくれた。酷暑の8月に下見に来て、距離を測ってゆき図面をおこした。シャンデリアの電球は100個、一個25W。格段に明るくなり、晩祷や曇天でも手元の文字が読み易くなった。

## 函館正教会



### 聖堂工事関連

函館正教会は来年1月から2か年かけて聖堂保存修理工事が行われる。耐震化と屋根の張り替え、外壁の漆喰の化粧直し、イコノスタスのイコン洗浄、内壁や建具の塗装などの大規模な工事となる。工事期間中は信徒会館を仮聖堂として奉事が行われる。

## ー　宣教献金の御礼とお願い　ー

＋主の御名によりてご平安をお祈りいたします
皆様方のご理解とご協力を賜り、昨年度は375件1,956,000円の宣教献金が寄せられました。わずかに目標額に到達できない結果となりました。
　今年は世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、教区内も諸行事が制限、中止となりましたが、出版活動などの充実に努力する所存です。本年もご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

記

■２０２０年度宣教献金目標額　　２００万円
■献金額　　1口　　３，０００円（1口以上を目安にお願いいたします）
■献金方法　　同封の郵便振替用紙に住所、所属教会名、聖名、氏名を記入しこれまで通り、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)にてお手続き下さい。
■期　　間　　２０２０年１２月８日　～　２０２１年５月３１日

# 人物消息

ー敬称略ー

（２０２０年５月～２０２０年11月）

**◆洗礼［教会名・聖名・氏名・受洗日］**

函館　マリナ　齋藤彩未　7月19日
札幌　クラウディヤ平　涼花　11月21日
小樽　ナデジダ　笹谷広子　5月17日
盛岡　ニコディム本多公栄　10月25日

※洗礼おめでとうございます。

**◆永眠［教会名・聖名・氏名・永眠日］**

釧路　イオアン　佐藤孝行　7月27日
ステファン武内孝一　8月28日
斜里　ユリヤ　中島静江　7月31日
イヤコフ　中島一己　8月2日
函館　ニーナ　齋藤梅子　5月27日
フェオドル後藤　力　6月16日
エレナ　西村慶子　7月1日
札幌　アンナ　石井綾子　7月15日
イアコフ　星見定義　8月14日
イオアン　加藤　戒　8月15日
ワルワラ　金田萬里子　11月23日
一関　ペラギヤ　小野寺きね子　10月5日
盛　シメオン　伊勢公彦　7月17日
アキリナ　伊勢房子　11月2日
エウゲニヤ伊勢静子　11月3日
上下堤ウェラ　大友なを子　8月20日

仙台　マルファ　遊佐ひでよ　9月24日
中新田イリナ　早坂ゆき子　8月15日
エリザベタ石川吉子　8月26日
白河　アンフィム平澤敏雄　9月16日

※永遠の記憶をお祈りいたします。

新しい光照者の皆さん。洗礼おめでとうございます。幾年も！